



高品質米生産のために

登熟期の適切な水管理を徹底しましょう！ 水稻の適期刈取りと適切な乾燥調製につとめましょう！

今年は、梅雨が例年になく早く明け、その後高温が続いています。1か月予報によれば、関東甲信地方の7/30～8/29の平均気温は高いと見込まれ、高温による玄米品質の低下が懸念されます。適切な管理を行い、高品質米生産をめざしましょう。

1 出穂期前後の適切な水管理の徹底！

7月6日発行第2972号「高温障害対策で品質のよいお米づくりをめざしましょう」で詳しく述べましたが、水稻の根の活力を維持するため、適切な水管理を徹底しましょう。

1) 出穂期後30日間は落水を避け、間断かんがいを行いますが、この時期は玄米の成熟にとって大変重要な時期ですので、田面が乾かないように十分注意します。田面が乾く前、表面に水気があるうちに入水しましょう。

2 適期収穫で玄米品質の向上を！

県内では、まもなく「あきたこまち」など早生品種の収穫が始まります。登熟期（出穂期から成熟期）が高温の年は、白未熟粒（乳白粒、背白粒、基白粒など）だけでなく、胴割粒の発生が多くなります。特に刈り遅れるとさらに多くなりますので、適期の収穫が大変重要です。

コンバインによる収穫に適した時期は、穂首近くに緑色を残したモミ（^{たいりよくもみ}帯緑粃）が10～5%程度の時で、その期間は早生・中生種が5日間、晩生種が10日間です。

収穫時期が近づいたら、平均的な生育の株を観察して、表1を参考に収穫作業の計画を立てます。経営規模や天候の影響により、刈り遅れが予想される場合は、適期より2～4日早め（帯緑粃率15%くらい）に収穫作業を開始し、刈り遅れの圃場が出ないように工夫します。

出穂期別の「穂首近くに緑色を残したモミが10%になる時期」の目安は表2の通りです。気温等によって変わりますので、ほ場をよく観察して適期を逃さないようにしましょう。

表1 帯緑粃率による収穫適期判定目安

帯緑粃率(%)	収穫適期
20	6～7日前
15	4～5日前
10～5	適期
3	刈り遅れ

表2 帯緑粃率10%になる出穂期後日数の目安

出穂期	出穂期後日数
7月下旬まで(あきたこまち、ふくまるなど)	33～35日
8月上旬(コシヒカリなど)	40日ころ
8月中旬(日本晴、あさひの夢など)	45日ころ

※出穂期とは、圃場全体の穂の40～50%が出穂したとき。

3 適切な乾燥調製で玄米品質の向上を！

1) モミ水分が高いほど、また高温であるほど変質しやすいため、収穫後はできるだけ早く（4時間以内に）乾燥機に張り込みましょう。

2) 乾燥機の送風温度が高いと胴割粒が多くなります。送風温度は40℃以下になるように調整します。

3) 玄米水分が15%になるように仕上げます。仕上がり水分が13.5%前後と低くなると胴割れ粒がさらに多くなります。

4) モミすりは、穀温が外気温程度まで低下してから行います。温度が高いと肌づれ粒、胴割粒、砕粒が多くなります。

5) 白未熟粒や被害粒は粒厚が薄いものが多いので、1.85mmのふるい目を用いて、適正な流量による丁寧な選別で除きます。特に本年は、高温による白未熟粒や被害粒が多いほ場も予想されるので、丁寧な選別や色彩選別機を活用して、整粒歩合を高めましょう。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 NEWS は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。